



Title	2020年度 意匠学会賞選考結果報告
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2021, 78, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/83326
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2020 年度 意匠学会賞選考結果報告

学会賞選考委員会
委員長 大森正夫

受賞者

並木誠士氏

受賞業績

近代京都における美術工芸に関する一連の研究

授賞理由

並木誠士氏は、狩野派や風俗画を中心とした中近世の絵画史研究を基軸としながらも、近年編者として著した『京都 伝統工芸の近代』（思文閣出版、2012）、『図案からデザインへ——近代京都の図案教育』（淡交社、2016）、『京都 近代美術工芸のネットワーク』（思文閣出版、2017）、『近代京都の美術工芸——制作・流通・鑑賞』（思文閣出版、2019）においては、近代京都における美術・工芸・図案からデザインをめぐる未分化な諸相を多角的な視点から体系的に整理し、従来の近代美術ならびに美術工芸研究とは一線を画する先駆的かつ重要な成果を生み出している。

特に、京都工芸繊維大学 美術工芸資料館 館長として企画した展覧会「京都高等工芸学校と京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅰ～Ⅲ」、「京都の墨流し染・糊流し染——その系譜と新たな可能性——」、「中澤岩太博士の美術工藝物語——東京・巴里・京都——」などでは、京都に根ざした美術工芸の近代化と地域教育制度に加え、そこでの指導者ならびに生徒による資料と作品、さらには当時の産業振興や人物交流などの状況も明らかにしている。また、これらの一連の展覧会による成果は、『図案からデザインへ 近代京都の図案教育』（淡交社、2016 年）に代表されるように、数多くの論文や展覧会カタログにまとめられている。

並木氏は、その幅広い研究成果を当学会誌「デザイン理論」においても数多く発表されるとともに、後進の研究者育成にも力を注ぎ、当学会にも多くの研究者を導いている。その精力的な研究ならびに教育業績に加え、新都・東京と対比される宿命にあった近代京都の活況の中で果たした美術と美術工芸の役割・事績について、美術工芸作品や制作者の研究に留まらず、複雑な時代背景や絡み合った人的関係にいたるまでを一つ一つ丁寧に紐解き、その時々刻々と変容した複雑なネットワークを俯瞰できる状態にまで整理されたことの功績は大きく、近代京都の美術工芸に新たな評価・関心を与える活動として高く評価す

ることができる。

学会賞選考委員会では、上記の理由により並木誠士氏による近代京都における美術工芸に関する一連の研究が、令和2年度の意匠学会賞に相応しい業績であると判断した。

この学会賞選考委員会からの提案は、2021年5月の臨時役員会（メール審議）にて承認された。